

第6回教育支援コーディネーター・フォーラム(報告⑤)

第2部 テーマ別分科会 (13時30分から16時30分まで)

- 分科会Ⅱ「放課後子供教室と企業・大学・NPO・団体等との連携を考える」
- 【二庁ホール】

放課後子供教室は、平成19年度より事業が始まり、「教育支援コーディネーター・フォーラム」と同じく今年で6年目を迎えます。現在、都内の放課後子供教室数は、1000教室を越え、その中には、企業・大学・NPO・団体等と連携して放課後活動の充実を図っている事例も生まれてきました。

このことから、昨年の「教育支援コーディネーター・フォーラム」に初めて、放課後子供教室に関する分科会を設けることができました。

分科会Ⅱは95名が参加し、事例発表者から放課後子供教室の活動事例を伺い、放課後子供教室と企業・大学・NPO・団体等との連携について考えていきました。

(1) 事例発表Ⅰ「放課後を活用して子供の学力・体力向上を～品川区「すまいるスクール鈴ヶ森」の大学・NPO・団体等との連携した取組～」

品川区「すまいるスクール」は、学校施設を活用し、放課後や土曜日、夏休みや冬休みなどに児童と一緒にのびのびと有益に過ごす、全児童に向けた放課後等対策事業です。

その一つの「すまいるスクール鈴ヶ森」では、NPO・大学・団体等と連携し、放課後の時間を活用した読み書き支援をはじめ、学校と一体となって児童の学力・体力向上を図る様々な取組を行っています。この取組について事例発表していただきました。

品川区「すまいるスクール」について

品川区の「すまいるスクール」は、平成13年からはじまりました。当時は、学力低下の危惧に加え、完全週休二日制の実施、テレビゲームの普及、子供が巻き込まれる犯罪の多発などの影響で、公園等地域の中で子供たちが遊ぶ姿が見られなくなりました。子供にとって「勉強」も大事ですが、「遊び」についても、社会性を身につけ、仲間意識を育てる等子供の成長のために重要です。しかし、放課後に安心して安全に遊ばせられないという風潮が多くありました。

「すまいるスクール」は、区内38校全小学校の中にあり、学校と一体化した運営を行っています。学校の教育目標が「すまいるスクール」の目標です。常に子供の状況について学校と情報を共有し、「すまいるスクール」で行う勉強も学校の事業の進捗状況とあわせて行っています。

「すまいるスクール」は、昭和大学医学部とヨガを通じたトレーニングの共同研究や区内NPOや東京学芸大学と連携して学力向上を図る取組をしています。

また、各「すまいるスクール」では、「体操教室」「囲碁教室」等が行われていますが、子供たちに教えてくれるのは、個人、団体、企業の地域のボランティアで、区民との協働により様々な取組を行っています。



品川区教育委員会庶務課
すまいるスクール担当
小澤 一雄さん

品川区「すまいるスクール鈴ヶ森」の活動について

「すまいるスクール」で子供たちに勉強を教えていた非常勤指導員が、「すまいるスクール」の活動を続けたいという思いから、NPOを設立し、「すまいるスクール鈴ヶ森」を受託することができました。

「すまいるスクール鈴ヶ森」の活動のひとつ「ぶんぶんクラブ」は、週1回、45分遊びながら楽しく読み書きを覚える活動です。UNOに似た単語のカードを使ったゲームでは、最初は「名詞」のカードだけを使いますが、3週間後は「名詞」に「動詞」を加えて次第に単語を増やし、できるだけ多くの単語が覚えられるようにしています。活動の最後に、動物の一部分のシールがもらえます。続けて参加すると、部分的なシールが集まり、ひとつの動物の形が出来上がるようになるようにしています。

「メイト体操」は、「いままで行っている「体操教室」の夏休みバージョンができないだろうか」という校長先生からの投げかけからはじまりました。最初は、立ったまま片足をあげることさえ難しかった子供たちが、何分も続けられるようになりました。

子供も地域で貢献できることがあると考え、近くの特別養護老人ホーム「さくら会」を訪問し、お年寄りと交流しています。普段から「落ち着きがない」と思っていた子供が、お年寄りの一番の人気者でした。



特定非営利活動法人ぶれしやすは一と理事長
柴田 佳代子さん

学校から見た「すまいるスクール」

学校には、いろいろな子供がいて、なかには配慮が必要な子供もいます。配慮が必要な子供が多いと、夕方になると先生方は、その対応でてんこまいになります。「すまいるスクール」は、午後6時まで子供たちを指導してくれているので、先生方も助かっています。

以前、「すまいるスクール」の指導員に「一緒に発達障害のことを勉強しませんか」と投げかけました。配慮が必要な子供は、早期に対応が必要なのはわかっていたので、LDの指導サークルを作り、「ぶんぶんクラブ」がはじまりました。

夏休みに「ぶんぶんクラブ」で学んだ子供たちから暑中見舞いが届きました。暑中見舞いをもらうことは珍しいことではないのですが、「ぶんぶんクラブ」で学んだ子供たちが、暑中見舞いを送ってきたことに、読み書きに前向きな姿勢を感じました。

子供が家に帰っても、家庭で子供の学習を十分ケアできないことも多いと思います。「すまいるスクール」が、家庭の状況も考慮しながら、これからも子供たちをケアしていただきたいと思います。



品川区立鈴ヶ森小学校校長
太田 裕子さん

(2) 事例発表Ⅱ「企業等の支援によって障害のある児童生徒の余暇活動の充実を～「あきるのクラブ」の取組～」

「あきるのクラブ」は、都立あきる野学園の保護者が中心となり、積極的に外部人材・資源の協力を求め、企業・大学・団体等の支援を得ながら、障害のある児童生徒の余暇活動を行っています。

それに応じて、「あきるのクラブ」の活動を支援している横河電機株式会社では、企業の社会貢献活動の一環として障害のある児童生徒の放課後活動への支援に取り組んでいます。

支援を求める側、その要請に応える側の双方の活動に対する思いを伺いました。

「チームあきる野」・「あきるのクラブ」について

学校週5日制完全実施に伴い、都立あきる野学園の児童生徒に余暇の過ごし方についてアンケートをとったところ、多くが「自宅」で過ごしていることがわかりました。余暇の充実は、卒業し就職してからではなく、在学中から取組み、いろいろな活動、いろいろな人と交流することで社会性も育まれることにもつながります。

平成10年度に都立あきる野学園でボランティア養成講座が開催され、修了生がボランティアサークルを立ち上げ、余暇活動等のサポートをしてもらっています。その後、平成14年度にPTAで「あきるのクラブ」を実施、平成15年度には、PTAに限らず広く有志を募り、実行委員会として活動するようになりました。都立あきる野学園で放課後活動を実施している「チームあきる野」は、「あきるのクラブ」、「フットサル」、「ミッキー太鼓」、「開放太鼓」の4団体によって成り立っています。その一つの「あきるのクラブ」は、参加する児童・生徒が4市1町1村と広域に渡り、複数のプログラムを組んでいるため、各市町村の社会福祉協議会等多くの外部団体に支援を求めてきました。都立あきる野学園は、進路指導の先生が企業とのつながりがあったので、外部の支援を求めると企業とのつながりをつけてくれました。学校開放事業・PTA担当分掌があるため、分掌の先生が企業とのやり取りを担当していただきます。役割を分担することにより、お互いの負担軽減にもつながります。



「チームあきる野」事務局長
「あきるのクラブ」実行委員会代表
宮寄 明美さん

横河電機株式会社の社会貢献活動について

社会的責任投資（SRI）の世界的な株式指標である「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス」にも「社会貢献活動」に関する評価項目があります。また、近年は、自治体の入札でも「総合評価方式」等で価格や品質以外の多様な要素を考慮するようになっていますが、その評価項目の1つに「社会貢献活動」も入っています。「社会貢献活動」としてカウントできるのは「社員が2年以上継続して取り組んでいるボランティア活動」で、活動中の写真添付が必要なケースもあります。そのような事情から、ボランティア活動中の写真を、ホームページ等で公開することを承諾していただけるかが重要です。

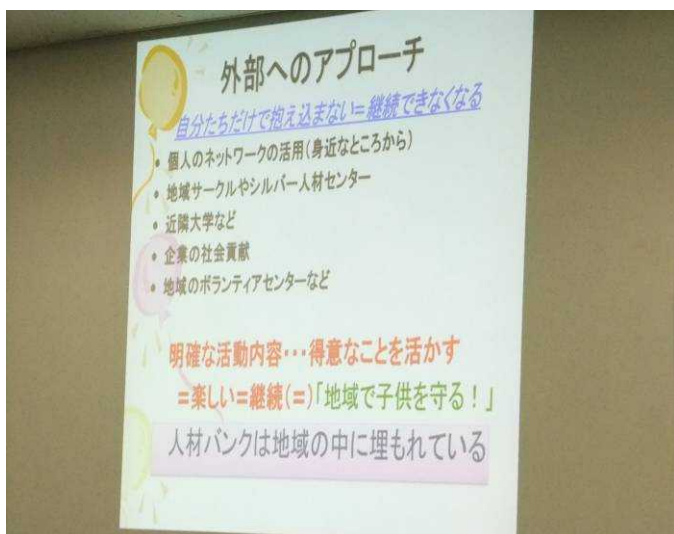
当社が「あきるのクラブ」に参加するようになったきっかけは、CSR部門発足時に、採用活動で交流のあった特別支援学校の進路担当の先生に「社会貢献活動をさせていただきたい」と相談したことがきっかけでした。「あきるのクラブ」は、①東京都の「放課後子供教室」の受託をうけている。②参加者が広域。③プログラムの種類が多様。④参加者から写真公開の承諾を得ることができる。これらの点から参加することになりました。

「あきるのクラブ」への参加は、社内の同好会組織に属する社員を中心に、一人ひとりの特技や趣味を活かした土曜日の活動で、無償ボランティアです。社員からは「子どもたちに名前を覚えてもらい慕われるようになりました。今後は、さらに子どもたちの気持ちにそえる活動にしたいです。」等の感想が寄せられています。



横河電機株式会社
経営監査本部 CSR部 CSR課
箕輪 優子さん

活動を豊かにしていくポイント



宮寄さん

自分達だけで抱え込むのではなく、地域や企業、大学等に支援を求めていくことが、継続につながります。支援を求めするために「まず、声を出す」ということが大事ですが、支援を求める団体が公の名称をもっていることが重要です。例えば、「あきるのクラブ」だけでなく、東京都から委託を受けているので「東京都放課後子供教室推進事業受託団体」等の名称があると信頼度が高くなります。

箕輪さん

企業が社会貢献活動に取り組む上で、公的機関の事業であることや、実績をホームページ等で公表できるかも重要です。しかし、社会貢献活動をしたくても、相談先がわからず困っている企業も多いと思います。コーディネーターの方から、ぜひ企業に声をかけてみてください。

例えば、商店街がある地域でしたら、まずは、話しやすい雰囲気の店主に事情を説明し、商店街の会長を紹介していただき、商店街全体でご協力いただくという方法もあると思います。また、各地域には法人会や経営者団体があり「社会貢献」をテーマにしている委員会も増えているようですので、団体の事務局に相談してみるのもよいかもしれません。

〔第二部分科会Ⅱの感想〕

企業

・日本の再構築のベースとなる小学生の健全でたくましい成長について、多くの人たちが本気になっているのを感じた。今後もコーディネーターにできる限り協力していこうと意を強くした。

コーディネーター

・企業の力をもっと活用させていただきたいと思いました。自分のところでは活かせるか考えさせられました。

教育行政関係者

・品川区の事例及び企業の取組は、今後の参考になる点が多かった。宮寄さんの外部へのアプローチ方法も。